

に対する感覚はここ数年でどんどん変わってきている。行政がやることというより、市民自らが率先して、継続的なビジネスモデルを作ること生きがいを持ちながら活動するようになってきた。

ソーシャルキャピタル^[2]、シビックプライドなど新しい言葉がたくさんでてきたのもこの現れかもしれない。

(3)イモヅル式活性化

3つ目は、中間支援機関によるまちの活性化もとても重要であるという点である。

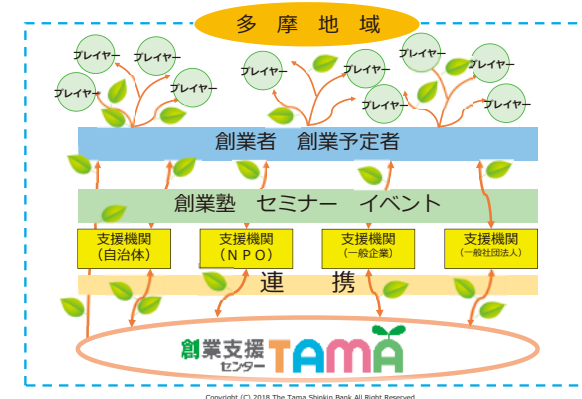
さきほどの多摩CBシンポジウムに集まったメンバーは、市民、NPO、行政、企業、金融機関など、実に様々なセクターの方々である。そこでの協働や連携の秘訣は、ピラミッド型の社会的な組織ではなく、それぞれの立場や、強み・弱みを享受しあうユルヤカな繋がりを保つこと。そうすることで、それぞれが課題に応じて相手を見つけ、自然と協働や連携を進めていく。結果として、地域の課題解決や人材育成の場にも繋がってきていると確信している。

2013年11月、創業支援センターTAMAを設立した。このプロジェクトは、東京都が募集を開始した「インキュベーションHUB推進プロジェクト事業」に当金庫の提案が採択されたことからスタートする。この事業は、複数の創業支援機関の連携体を構築し、それぞれの資源を活用し合いながら、創業予定者の発掘・育成から成長促進までの支援を一体的に行う取組である。当時、多摩エリアで創業支援を積極的に行う団体はほとんどなかった。そこで、それまで女性やシニアの支援、コミュニティ誌の作成等、地域で活動していた方々に、多摩CBシンポジウムのユルヤカなネットワークを基礎とした「創業支援機関」として活躍してもらおうことを考えた。一市民活動ととらえられていたことが、切り口を変えたことで、プレーヤー（創業者）により近い創業支援の担い手となり、その活動が「コウエキ」活動となったのである。多数誕生したこの民間支援団体と既存の支援団体とが肩をならべることで、創業機運に拍車がかかり、ベッド

タウンにおける創業支援の好事例となった。

創業支援等でプレーヤーを支援するのはもちろん重要だが、より支援の裾野を広げるためには、支援側の育成を行うことが重要である。支援者を育成し、その支援側の裾野を広げれば、まさに「イモヅル」のようにプレーヤーへの支援が拡がり、まちが活性化するというのである。

▼創業支援センターTAMAによる創業支援イメージ図イモヅル



もちろん、市役所や商工団体、そしてわれわれ信用金庫も中間支援組織である。これら既存の組織も含め、NPOや任意団体など民間団体が生まれ活躍することがさらなる地域の豊かさに繋がることとなる。子育て、シニア、環境、介護などなど様々な地域の課題にくまなく対応していくためには、こうした中間支援組織の育成が急務である。

(4)地域コネクターを増やそう

「コネクター」とは、未だ新しい言葉で定義が未確定なところも多いが、ここでいう「コネクター」とは、人と人とを繋げて互いの喜びを導き出せる能力のこと、または、能力のある人のこと。たくさんの方と会い信頼関係を作っていて、またお互いの幸せを図れるからこそできることである。

各金融機関は、製造会社と販売会社をマッチングして販路拡大を促進したり、企業と大学の研究を繋ぎ合わせて新しい事業を創出したりといった業務を本業として行い始めている。当金庫でもそういった活動はかなり前から行ってきた。さらに、地元企業に大手企業のシニア人材

をマッチングするなど、地域の実情に合わせて仲を取り持っている。これも「コネクター」の能力の一部である。

企業同士のものはもちろんだが、それ以外にも、自治体とNPO、市民との繋ぎ合わせなどはまさしく「コネクター」の能力が必要となる。双方の立場を理解しながら、上手にマッチングできれば、共創、協働の面からもかなり効果が出てくるのが期待される。信頼と信用がベースにあることはいうまでもない。また、新しくマンション等を購入して引っ越してきた方々をどう地域の活躍の場に登場していただくように仕向けられるかなど、「コネクター」の能力が必要になる場面は山ほどある。

人と人とを繋ぎ合わせることができる「コネクター」が増えることが、多摩エリアの豊かさに繋がると強く感じている。

3. コ・コ・イ・コは現場から

コウエキ、コウエキ、イモヅル、コネクターの頭文字を並べてみたら「コ・コ・イ・コ」となった。「ここ行こ」、そう、コ・コ・イ・コの答えは「ここに行こう!」という積極性と、答えはその現場にあるということ。

▼フィールドワークの様子



(平成29年9月4日筆者撮影)

先日、東京都市町村職員研修所の政策課題研究で、フィールドワークの講師をする機会をいただいた。地域のレガシーを探す研修であったが、当初、講師を依頼されたのは座学でということだった。初めて政策課題を作ろうとする自治体職員の皆さんに、いきなり座学で地域の課題とはと語ってもなかなか伝わらないだろうと

思い、こちらから、フィールドワーク研修、現場研修を提案した。武蔵小金井駅から東小金井駅までを3時間で歩くというもの。JR中央ラインモールの社長や当金庫の小金井支店長、手造りハムとソーセージの名店、チーズケーキ専門店、素敵なホールを持つNPO劇団、高架下の創業支援施設、道路沿いに何気なくある石仏や地蔵などを見て回った。ソコソコ豊かな地域で、ユルヤカなフィールドワーク。地域には見過ごしている宝物が山ほどある。現場をまわれば、人と話せば何かしら見つけることができる。そこから課題を見つけ、政策に活かしていくことが大切だと感じる。

2017年、東京都から多摩の振興プランが発表された。このプラン作成のためのワークショップにもたくさんの多摩エリアの市民が参加した。ワークショップは盛り上がり、ワクワクも大きいものとなった。この熱を冷まさぬよう、計画だけでなく具体的に実行に移して、皆で多摩を盛り上げていけたらと思う。

ゆとりを持って楽しく、クリエイティブであること。仕事が忙しさを作業になると発展しないことは周知の事実。頭文字をとった「コ・コ・イ・コ」を合言葉に、ぜひ皆でこの多摩エリアを素敵にしていきましょう。

[1] 「地域課題解決」や「活性化」などに、市民や市民活動団体、NPO法人、中間支援機関、企業、教育機関、金融機関、行政機関などが連携しながら、「自立・継続」して活動できるように「温かいお金のまわる仕組み」を考えてから取り組む「地域参加&まちづくり」の「新しいカタチ」のこと。

[2] 人々の協調行動を活発にすることによって、社会の効率性を高めることのできる、「信頼」「規範」「ネットワーク」といった社会組織の特徴のこと。

<参考文献>

※『地域づくりの教科書』 一般社団法人全国信用金庫協会 2015年1月

※『地域づくり人育成ハンドブック』 総務省人財力活性化・連携交流室 平成25年3月

※『多摩の振興プラン～人の暮らしと自然が調和し、誰もが輝くまちを目指して～』 東京都総務局行政部振興企画課 平成29年9月